



# ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-1-2


TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当:上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 (内線1406) FAX.025-526-6114

ホームページ⇒

ふるさと上越 



直江津うみまちアート作品(そらのみなと) 宮川礼子さん撮影

## 「たより」No.272 目次

会員数とふるさと市場報告 .....	1
Jネットの活動とお知らせ .....	2
とれたて上越コーナー .....	3
・上越の行事・展示会	
・上越の旬の話題	
「直江津うみまちアート」、「観蓮会」	
いしずえ上越 .....	4
・エドウィン・ダンがやってきた頃の直江津はどんな町? (その1)	
桑山有紀	
上越市からのお知らせ .....	6
・サテライトオフィス開設のおすすめ	
会員ひろば.....	7
穴が無い!!	佐藤光子
上越産品販売のお知らせ .....	7
鯉橋師匠高座予定 .....	8
Jネットからのお知らせとお願い .....	8

※ホームページ「ふるさと上越ネットワーク」では、「たより」を全ページカラーでご覧いただけます。

## 会員数と「ふるさと市場」販売報告

(1) 会員は現在 596 名です。(令和 3 年度目標 610 名)

(2) 「ふるさと市場」(7月合計)の販売状況 49点 ¥105,635 (前年同月 52点 ¥34,807)

## Jネットの活動とお知らせ

### 1. サロン開催 次回は9月9日（木）です。

8月第2木曜日の12日（木）、毎月の運営委員会の後、午後5時半より、オンラインにて、Jネットサロンを開催しました。オリンピックも終わり、再炎上のコロナ禍もあって、参加者は少数。それでも、おいしいお酒を片手に、参加者の話題に花が咲き、とてもいい時間を過ごしました。

【次回のサロン】オンライン開催。

令和3年9月9日（第2木曜日）17：30－19：00

申込みは、事務局宮里 k.miyazato@araipt.co.jp まで。

URLをお届けします。

ご参加は超簡単、クリック1回で参加できます。

未体験の方も是非、ご参加ください。

（途中入退室自由です。）

事前に操作方法もお手伝いします。



8月の運営委員会とサロン

### 2. Jネット 2022年カレンダー写真を募集しています！

なかなか帰省できないで時世が続いております。ふるさとへの思いが募りますが、こんな時は、Jネットカレンダーで、ふるさとの上越を味わってください。

その2022年カレンダー写真を募集します。ステイホームの中にあっても撮られた、上越の風景・静物、行事や上越再発見写真、あるいは数年前に訪れた上越の写真など、お待ちしております。

（定番の観光ポイント以外の写真も大歓迎）

カレンダーの表紙や2ヶ月毎の各頁に掲載、場所（行事）、撮影者名を記載します。

応募は、事務局宮里 k.miyazato@araipt.co.jp 宛てにデータで送信ください。

横長写真（縦横約2：3の比率）（画素数1000KB以上）とし、9月30日までにお願いします。

### 3. ホームページ（HP）

JネットHPは、上越のカラフルで大きな写真18枚、当会からのお知らせや「たより」、関連サイトへのリンクなどが見やすく好評です。ぜひとも、ネットにて、「ふるさと上越ネットワーク」、または <https://joetsu.gr.jp/> を検索してご覧ください。「とれたて上越」「なんでも上越」のコーナーには、皆様からおよせいただいた情報とともに送りいただいた写真を掲載することもできます。

Jネット会員は、上越タイムス電子版ならびに上越ケーブルビジョン（JCV）の動画を閲覧できます。上越妙高エリアの今をお楽しみください。

#### ◎上越タイムス電子版、上越ケーブルビジョンへのアクセス方法

- ① HP右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックしHPへ
- ③ 下記のID・メールアドレス・PSWにてログインしてください



## とれたて上越コーナー

### 1. 上越の行事・展示会

#### (1) たかだ花ロードウィーク

2021年9月18日～23日。本町3・4・5丁目商店街、高田市街地一帯。

秋の高田を華やかに演出する「たかだ花ロードウィーク」が、高田本町商店街および市街地一帯で開催されます。花とアートをテーマに、市民公募による作品が街なかを彩ります。

#### (2) 安塚区のフラワーロード ヤナギバひまわりの「黄金の回廊」

北越急行・ほくほく線「虫川大杉駅」から車で10分。

安塚区の県道、国道の植栽帯にマリーゴールドやサルビアが6月から9月頃まで咲きほこり、10月からは200万本のヤナギバひまわりが黄金色に輝く「黄金の回廊」となります。案内所といっぴく処を設けて皆さんのお越しをお待ちしております。

#### (3) 続100名城スタンプ」の設置場所について

続100名城スタンプは、上越市立歴史博物館および高田城三重櫓管理棟の2か所に設置しています。両館の休館日でも押印いただけます。

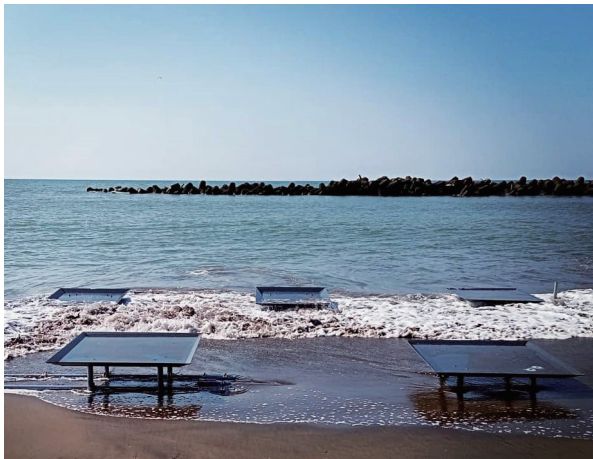
上越市HP <https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/museum/takada-castle.html> もご参照ください。

### 2. 上越の旬の話題

#### (1) 「直江津うみまちアート」

8月1日から9月26日（日）まで、直江津の4会場で、「未来への交感」をビジョンとし、「うみ／まち／ひと」をテーマに開催中です。現代アート作家たちと直江津の市民や商店、それに、上越コンベンション協会、上越商工会議所、無印良品など多くの協力を得て、直江津地区が現代アートで染められています。外からも大勢の人が訪れ、楽しんでます。（入場無料）

詳細は、公式ホームページ <https://artseasidenaoetsu.jp/> をご覧ください。



「そらのみなと」（空間演出研究所） 宮川礼子さん撮影

一並べられた容器に海水が入ると刻々と変わる空が写ります。

ひさしぶりの海辺、近所でもこういう機会がないと海に来ないので夏らしいことをするいい機会になりました。（宮川礼子さん）



田川 千佳さん、他21人 シェア11  
いいね! コメントする シェア



宮崎 俊英

7月29日・🌐

母校 直江津中学校 美術部21名が直江津 うみまちアート 渡辺英司作「名称の海園」の制作を手伝ってくれました。始めは緊張気味の生徒も次第に制作に没頭。渡辺さんの制作への思いや説明を聞いた美術部員たち。きっと明日からの部活 今までと違う作品ができるかも。



飯野 ケイさん、他26人 コメント11

上越市立歴史博物館宮崎俊英氏のフェイスブックから



## (2) 高田城址公園 観蓮会

見頃と言われて出かけました。

朝6時台でも、それなりの客数で、いつもより、花の数が多いような気がします。蓮は、背丈が高く、堀から飛び出しているような印象でした。近所にこんな場所があって、本当に恵まれているとつくづく思います。

(小坂恵美 記)



高田城址公園入口



オーレンプラザ近く



博物館近く

## いしずえ上越

日本列島4島がすっぽり入る円の中心、直江津。日本遺産「北前船寄港地」指定、港湾大整備、そして、今夏の「直江津うみまちアート」と、昔からの交通の要衝は今、燃えています。

その直江津が近代化する礎（いしずえ）とは何であったのか。直江津出身で札幌在住の桑山有紀様のご寄稿が、2回にわたって、探ります。

### エドウィン・ダンがやってきた頃の直江津はどんな町？（その1）

桑山 有紀

私は、昨年、母校高田高校の同窓会東京支部会報「雪椿」にエドウィン・ダンとジェームス・ダン親子と私の不思議な縁について寄稿しました。

エドウィンは明治の初め米国から来日、北海道開拓使にて酪農を指導の後、外交官に転じ、駐日公使を務めた後、M33年インターナショナル石油（写真1参照）を設立し、直江津支配人として活躍しました。



写真1 インターナショナル石油直江津製油所  
(ふるさとの百年 上越 新潟日報事業社 S57年発行より)

息子ジェームズは直江津小学校に通い、成人後は音楽家として活躍、母校の校歌を作曲し、同窓会のピアノ寄贈に際し世界最高のピアノ（写真2参照）を選定してくれました。

2人共故郷の大恩人です。そのことは、Jネット会報「たより」でも、H23年12月25日号「直江津小学校のピアノと校歌」、および令和1年11月25日号「直江津小学校校歌は語る—ダン親子の直江津物語」にて紹介されています。

私は最近「直江津の歴史」（直江津の歴史編集委員会編集 S46年発行）にダン達の記事が結構あること、また「越後府中地方史研究」（渡辺慶一著 S26年発行 以下府中史研究という）には外国人社員の役職と氏名が記載されていることを発見しました。

M33年から7年間ほど22名もの外国人が在留していたとはびっくりで、様々な異文化交流があったことでしょう。町民達との交流について興味は尽きませんが、まず当時の直江津はどんな町だったか知りたくなり「直江津町史」（白銀賢瑞著 S29年発行 以下町史という）も参照してみました。

府中史研究の享保、文化文政そしてM5,6年頃の地図によると、江戸時代に町が2つ程追加された（波浪や荒川氾濫の避難し移住）ものの明治初期まで南側の町割りは変わりません。

町史には「高田藩時代の直江津は西は横区を限りとして砂山、塩屋新田、八幡に接し、東は荒川を限りとして西対岸は荒漠たる（中略）一軒の民家もなかった。南は寄区を限りとしてそれ以南は至徳寺地内で至徳寺集落のある処までは一帯の草原や田園で一軒の人家もなかった。」と記述あり、明治の初めも同様と推察されます。

新町にはハイカラなお店があり、私が生まれた四ツ屋区より新しいと思ってましたが、なんと“新町は江戸時代から新町”とは！また直江津は大火で有名とは知っていたものの、府中史研究の「今日でも生きて居る人で50才位の人なら3回乃至4回位家を焼かれた人は多い」の記述には驚きました。

ダン達が来たM33年は総戸数2,552戸でしたが、直前のM31年に1,595戸が、滞在中のM39年も1,091戸が焼失しました。江戸時代から町民は何回も大火に見舞われながら、砂丘上の狭い範囲で町を維持しました。きっと江戸時代での治水技術では荒川の氾濫・決壊は手に負えない脅威だったのでしょう。

雁木が続く街並みは火事には大きなハンディですが、奥座敷を土蔵造りとしたり瓦葺屋根とする対策や消火体制の整備により火事への備えを徹底したのです。町史曰く「町民は災禍と闘い復興に全力を傾注し来たった、実に直江津は奮闘の町」でした。

（次号に続く）



写真2 現在も現役の直江津小学校  
ビヒシュタイン製ピアノ（R元年）



## 上越市はサテライトオフィス誘致に取り組んでいます

上越市は企業の進出を全力でサポートします！！

ぜひお知り合いの方々へご周知ください！

テレワークの導入が進む中、首都圏のIT企業等が地方に拠点を構える動きが出てきています。実際最近では上越市出身の方が雁木の町家をリフォームし、サテライトオフィスとして利用することとなりました。

上越市では、今年度から、移住の促進や若者・子育て世代の多様な働く場の創設につながるサテライトオフィスの誘致のため、オフィスの家賃やリフォーム費用などを支援する補助制度を新設しています。

## ■ サテライトオフィス等の開設を応援する補助金

- ・サテライトオフィスの家賃、購入・リフォーム費の補助
- ・市内を視察する場合の宿泊費やレンタカー使用料の補助
- ・コワーキングスペースの整備に係る費用の補助

## ■ U・Iターンを応援する補助金

- ・東京圏から上越市へU・Iターンされる方へ支援金を交付
- ・賃貸住宅を借りる方や住宅を建てる方の費用の補助
- ・住宅のリフォーム費の補助 など

詳しい補助金の内容はこちら→



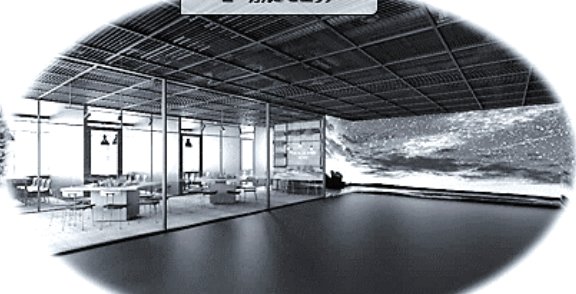
【サテライトオフィス誘致パンフレット】

## 令和3年10月、最先端の屋内外ローカル5Gラボが上越市に誕生！！

エントランスゾーン



ローカル5Gエリア



サテライトオフィスエリア



サテライトオフィスエリア



サテライトオフィスやコワーキングスペースもあわせて整備されます！

上越大好きの当会会員には、いろいろな分野でご活躍の方が大勢おられます。作家で俳人、そして、「課題で書く800字エッセイ」を発刊された佐藤光子会員もそのお1人。今月は、その佐藤会員より、ご寄稿をいただきました。どうぞお楽しみください。

### 穴が無い!!

佐藤 光子（高田 東城町2出身）

私の属する俳句結社「岳（主宰・宮坂静生）」には、五十代でカリスマ編集長として俳壇に知られる小林貴子さんが居る。内外に絶大な信頼を得て今は現代俳句協会の副会長だ。

その貴子さんは『黄金分割』を出版し、私に送ってくれた。星野立子賞も受けた彼女の第四句集である。

以前、俳句の商業雑誌のグラビアに七ページにわたって掲載された時にも、発売日に先立って雑誌をもらった。千人以上の会員がいる中で、私が彼女と少し親しいのには理由があった。

京都に住む次男の嫁の伸子は、京都・大阪の合唱団に入り、漆工芸もしていて忙しい。「[岳]は勉強になるから、一緒に俳句をやろう」と強引に誘った。少し下地があったので、翌年「岳新人賞」を受賞した。貴子さんとは年齢が近く、それを機に交流が深まったようで、私も貴子さんと少し親しくなったのだ。

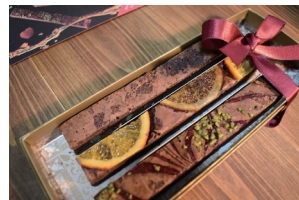
松本に住む貴子さんは、会誌編集、長野県下のカルチャー講師、講演、寄稿などに忙殺され、家での食事は、立ったまま済ませることもあるとか。それでも「書いたものが送られてくると、必ず読みます」と、いつも言っている。私がエッセイ集を送った時、「光子さんは俳論が書けると良いのに」と、私が俳句に不勉強なことを、しっかりと指摘された。

彼女に上梓祝いを送ろうと封筒を用意した時、これだけでは味気ない、何か色を付けたいと思った。そうだ、昨日読書会の後、姉妹ごっこをしている仲良しの妙子さんから、「光子お姉さま、いつも優しくしていただいて、これほんの感謝の気持ち」と手渡されたコートクールのチョコレートがある。これを添えよう。友人なら「頂き物だけれど、お福分け」などを書く。これにもそう書こうかと思ったが、友人でない人は、横流しだと興醒めするだろう。結局何も書かずに一緒に送った。

数日後、貴子さんから封書が届いた。手紙の中に一筆箋もある。「光子お姉さま——あ、妙子さんの字だ。手渡しなので、手紙が入っているとは思わなかった。「頂いちゃいました」貴子さんのお茶目な手紙に救われたが。祝意のとんだ+アルファだ。ああ、穴があいたら——。

伸子に直ぐに電話を掛け、「『美味しいから、貴子さんにもあげたいと思ったんでしょ』と、のんちゃんから言って!!」と泣きついた。「はい、分かりました」。声は、笑っている。

ああ、また伸子に借りが出来てしまった。



コートクールのチョコレート

#### 上越産品販売のお知らせ

- ネットふるさと市場として「取次販売商品一覧」を同封します。

現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧（A3版1枚）を同封にてお届けします。会員は送料無料で取り寄せができますので、どうぞご利用ください。

- 上越特産市場

上越市運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモール「上越特産市場」です。「上越特産市場 <https://www.joetsu-tokusan.jp/login/input.php>」からご覧いただき、お申込み下さい。

- 「新潟・上越妙高うまさ直送！雪国マルシェ」  
恒例の上越特産品販売の「雪国マルシェ」は、下記にて予定しています。

日時 9月25日(土)、同26日(日)  
10月23日(土)、同24日(日)

会場 有楽町 交通会館1F。  
開業時間 11:30 - 17:30

☆お問い合わせ先：JCV 東京情報センター 03 (5218) 7730

- 常設店舗 「雪国商店」

場所 有楽町交通会館1F。

営業時間 11:00 - 19:00 年中無休  
(年末年始は休業)

ネットで「雪国商店」を検索してご覧ください。

雪国商店では、少しでもふるさとへ帰った気分を味わっていただくよう、品揃えをしてお待ちしております。ネット「雪国商店」でも検索してご覧ください。

## 「上越市を語ろう」－皆様の手で上越市の魅力を発信

当会HPでも会員以外の閲覧も多く、上越に関心や興味をお持ちの方は大勢おられます。

ところが、上越は意外と知られていないのが現実です。

上越線の走る上越との混同もしばしば、ましてや、当上越市の面積が東京23区の1.5倍、上越・北陸の両新幹線が利用でき、東京から2時間の距離にあること、歴史と豊かな文化、海と山に恵まれ、食事やお酒がとびっきり旨いことなどは、あまり知られていません。これでは、観光や産業の誘致、移住のお勧めもできません。

そこで、上越応援団たる会員の皆様をお願いします。広宣の最も強力な手段「口コミ」を活用し、リモートを含むお集まりの際には、ひと言、上越に触れ、上越の宣伝をしていただきたいのです。ご自身の情報、上越市や当会の資料などをご利用され、上越市の大使となってください。

よろしく願いいたします。

### 瀧川鯉橋師匠 出演予定

鯉橋：03-3845-1202

- ◇ 9/6(月)～10(金) 池袋演芸場・夜の部－鯉橋主任興行一時 間：午後4時45分～8時半ごろ

木戸銭：2500円(65歳以上500円引きなど、各種割引あり)

主 任：瀧川鯉橋。ほかに桃太郎、東京ボーイズなど出演。

お問合せ：03 - 3971-4545(池袋演芸場)

- ◇ 9/12(日)「梶原いろは亭」から生配信の落語会

s 出演：鯉橋、小助六、夢丸。お昼ごろ。無料。

お問合せ：03 - 6322 - 1622(いろは亭)

- ◇ 9/16(木)～20(月・祝)

浅草演芸ホール・夜の部 午後5時～9時

※鯉橋の出番は5時半ごろ。

木戸銭：3000円 主任：雷門小助六。ほかに、

桃太郎、東京ボーイズなど出演

お問合せ：03-3841-6545(浅草演芸ホール)

皆様、どうぞお気をつけて

お過ごしくださいますよう。

瀧川鯉橋拝

### ●●●●●●●●●● ネットからのお知らせとお願い ●●●●●●●●●●

記事、寄稿、投稿、メッセージをお願いします。

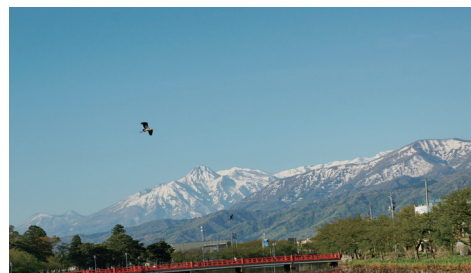
会員の皆様には、ぜひとも、ご自分の経験、上越の魅力、上越に役立ちそうなこと、会員の親睦を深めることなどなんでも結構ですので、記事(1200字程度まで)と写真を送信いただければ幸いです。

皆さまの貴重なお話は、読み手を元気にします。

送信先：k.miyazato@araipt.co.jp

コロナ禍の折、皆様には、くれぐれもご健康にご留意され、お過ごしください

◎次号「たより」は令和3年10月10日の発行です。



撮影 松本栄規さん